

## 戦えば青空

台風と暴力団は、遠くで騒ぎ始めたナ、と軽く見ているうちに、意外なスピードで、目の前にやってくる。

来て欲しくない、と逃げ腰になった時こそ、必ずやって来る。いやなところがよく似ている。無防備のまま立ち向えば、その結果は、同じく惨憺たるものとなるだろう。

これは、暴力団に限らない。エセ右翼とかエセ同和行為とみなされる場合も、同断である。理不尽な手段で、甘い汁を吸う手合であることに変わりはないからである。

もっとも台風は、日本国土に豊かな水を恵んでくれるのであった。ほどほどに、来てくれなくては困るのである。有害無益の暴力団と全く一緒にしてしまつては、台風が怒るかもしれない。

わが名古屋弁護士会の民暴委員会の活動は、「まるで熱血高校野球だね」と冷やかされることがある。

私は、委員長として、「高校野球部のキャプテンのようであること」をむしろ誇りとしている。

名古屋弁護士会民事介入暴力対策特別委員会

委員長 村橋泰志

確かに、メンバーは、若い。だからこそ、この数年間、ムキになって、暴力団やエセ右翼の連中と斗い、ホームランは打たないけれど、コツコツとヒットを積み重ねて、得点を増やしてきたのである。

まだ、台風と斗ったことはないが、こと民暴事件に立ち向った際、敵に背中をみせたことはないと誇りをもって断言する。

その成果をまとめて、本とした。

△読んでもらいたい▽、と期待する。

△実戦に役立てばいいが、……いや、必ず役立つはずだ▽、とも思う。

さらに、△私達の水準を乗り越えて、その成果を、逆に教えてもらいたい▽、と望む。それが、連携プレーというものだ。

そうだ、台風と民暴が一番よく似ている点を言い忘れていた。……充分な対策をほどこして、事が終わったその後は、空は、抜けるほどの青空なのだ！